

兵庫県立美術館 2009 年度コレクション展

美術の中のかたち 手で見る造形

藤本由紀夫 SHADOW - exhibition obscura -



《Ears With Chair》1990 年
西宮市大谷記念美術館蔵

会場：兵庫県立美術館

会期：2009 年 7 月 25 日（土）～11 月 29 日（日）

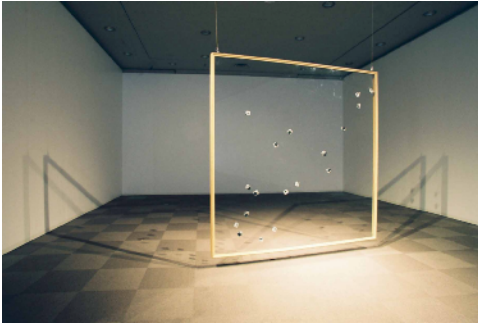
平成元（1989）年度より開催している「美術の中のかたち - 手で見る造形」展は、従来視覚のみに偏っていた美術鑑賞の機会を、視覚障害者の方にも提供し、あわせて作品に手で触れることで、健常者の方にも視覚以外の感覚器官を通じた美術鑑賞の在り方を探ってもらおうという試みで、今年で 20 回目を迎えます。今回は「きく・みる・さわる」をテーマに、私たちがいつも美術に接する時とは少し異なった視点、感覚を呼び起こそうとすることを目的とし、鑑賞者自身の五感で美術を体験していく中で、美術の楽しさを味わってもらおう試みです。彫刻に触ったり、薄暗い明かりの中で木版画をみたり、音を体験する作品など、一味違う美術鑑賞を提案します。

今回の展示は、サウンドアーティスト、藤本由紀夫氏（1950 年～）の作品に、当館の所蔵品を加え、展示室全体を「体験する展覧会」として企画構成したものです。この展覧会は、企画者（プランニング）、案内役（ナビゲーター）として藤本由紀夫氏を招き、当館との共同作業（コラボレーション）によって開催されます。

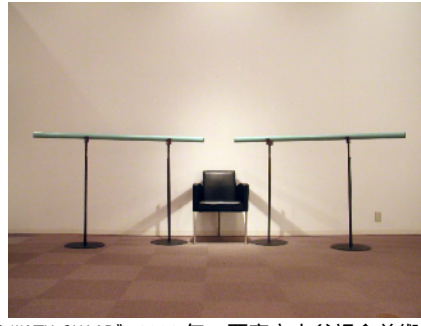
Obscura は、カメラの原型となった装置、camera obscura(カメラ・オブスキュラ)に由来し、ラテン語で「暗い」という意味です。

展示の試み

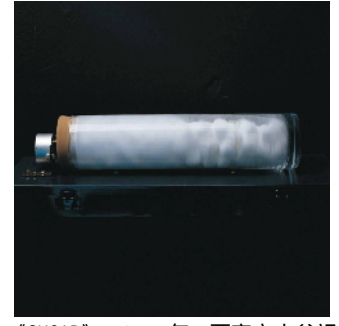
- 「きく」・・・藤本由紀夫氏は、サウンドアーティストとして活躍しています。その作品は、普通私たちが聞き慣れた音楽や音ではなく、聞き取りにくい音や、複雑に絡む音など意識的に聞き取ろうとすることによって、聞こえてくる音の世界を表現しています。
- 「みる」・・・美術作品を見ることが即理解することにつながるとはいえません。あえて視覚的に暗い空間で美術作品を見ることによって、これまでに見えなかった新たな発見や作品のもつ意味が見えてきます。薄明かりの展示室、そして版画作品を裏側からの光で照らすなど今までにない照明方法を試みます。
- 「さわる」・・・例年の『美術の中のかたち』の内容と同じく、彫刻作品を「さわる」ことを通じての鑑賞を試みます。「聞く」「見る」とあわせて五感を刺激することで、美術作品との距離をより近くします。



《18X18》2002年 西宮市大谷記念美術館蔵
木、アクリル、ポリゴ-ルエー、209X209X7.5cm



《EARS WITH CHAIR》1990年 西宮市大谷記念美術館蔵
木、ステンレス、塩化ビニール、6X6X180cm（ハ-イ幅）



《SUGAR》1995年、西宮市大谷記念美術館蔵
鉄、ガラス、コルク、角砂糖、モーター、15X45X15cm

藤本由紀夫（ふじもと・ゆきお）略歴

1950年 名古屋生まれ。

1975年 大阪芸術大学音楽学科卒業。

1997年～2006年 西宮市大谷記念美術館において「美術館の遠足」と題した年1日の展覧会を10年間開催する。

2001年 第49回ヴェネチアビエンナーレ日本館に出品。このころからヨーロッパ各地の展覧会に参加。また日本各地の美術館での展覧会に出品する。

2007年 第52回ヴェネチアビエンナーレに出品。

2009年 ロンドンにおいて個展。

現在、C.A.P.の活動メンバーとして活躍。神戸にアトリエを構える。

関連イベント

8月29日（土）15:30 -19:00 ギャラリー・トーク&光のワークショップ「作品と光」

展示室、アトリエほか

定員30人（要申込・有料）

「芸術の館友の会」共催

9月13日（日）14:00-15:30 「アーティスト・トーク 最新作を語る」 ミュージアムホール

定員250人（要観覧券）

10月17日（土）14:00-15:30 「藤本由紀夫案内によるギャラリー・ツアー」 展示室

定員30人（要申込・要観覧券）

11月7日（土）13:30-15:30 「目と耳でとらえるかたち」 展示室

小・中学生と保護者（合計30名）（要申込・有料）

申し込みに関する詳細は、ホームページをご覧ください。

お問合せ先

兵庫県立美術館 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

ホームページ <http://www.artm.pref.hyogo.jp>

【取材・写真提供に関すること】 営業・広報グループ

TEL:078-262-0905（直） FAX:078-262-0903

【企画内容に関すること】 企画担当学芸員 河崎 晃一

TEL:078-262-0909（直） FAX:078-262-0913

兵庫県立美術館 2009年度コレクション展
「新収蔵品紹介 美術と時代」



水越松南《春日》1917年
(前期9月27日まで展示)

- 会場 兵庫県立美術館常設展示室
主催 兵庫県立美術館
会期等 2009年7月25日(土)～2009年11月29日(日)
会期中に一部展示替えを行います。
前期：7月25日(土)～9月27日(日)
後期：9月29日(火)～11月29日(日)
- 休館日 月曜日休館 ただし9月21日(月・祝)は開館、9月24日(木)、11月24日(火)は休館
神戸ビエンナーレ会期中無休 10月3日(土)～11月23日(月・祝)
- 開館時間 午前10時～午後6時(入場は午後5時30分まで)特別展開催中の金、土曜日は午前10時～午後8時(入場は午後7時30分まで)
- 観覧料金
一般 500(400) 300 円/大高生 400(320) 240 円/中小生 250(200) 150 円
()・・・団体料金 ・・・特別展とのセット割引
兵庫県内の小中生はココロンカードの提示により無料
障害のある方とその介護の方1名は無料
兵庫県内在住の65歳以上の方は一般料金の半額

このプレスリリースについてのお問い合わせ先

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 <http://www.artm.pref.hyogo.jp>

【取材・写真提供に関すること】 営業・広報グループ

TEL:078-262-0905(直) FAX:078-262-0903

【企画内容に関すること】 学芸員 吉田朋子・江上ゆか

TEL:078-262-0909(直) FAX:078-262-0913

開催にあたって

兵庫県立美術館では、これまで40年近く作品収集を続けて8000点を越える作品を収蔵しています。昨年度も新しく93点の作品と1点の資料が仲間入りしました。今回はこれら新収蔵品から主なもの約35点を、既存のコレクションと関連づけて、時代の流れに沿いながら、展示します。1階では主に昭和以降の作品を、2階では大正以前の作品・兵庫県ゆかりの日本画・小磯良平・金山平三の記念室をご覧ください。

本展の見どころ

約160点の作品を通して明治から平成までをたどります！

明治時代から2004年までに制作された絵画・彫刻などを展示しています。1階・2階を通してご覧いただけますと、150年近くの時間旅行ができるかもしれません。

新収蔵品の初お目見えです！

昨年度ご寄贈を受けてコレクションに入った作品から約35点を初めて展示します。

一度は見ておきたい、名品も。

小磯良平《斉唱》、金山平三《大石田の最上川》、村上華岳の日本画といった兵庫県の誇る巨匠たちの作品が待っています。

関連行事

学芸員レクチャー 2009年8月1日(土) 15:30~16:30 「新収蔵品紹介」

こどものイベント 2009年8月15日(土)・16日(日) 10:30~15:00 「ガボ研究所(がぼらぼ)」

会期中毎週金・土・日 午後1時より約45分ミュージアムボランティアによるガイドツアー

同時開催「美術の中のかたち」展にも関連行事がございます。別添のプレスリリースをご覧ください。

展示内容

印は新収蔵品の一例です。

1階

昭和の美術から 約30点展示

(1) 1930年代「日本的な油絵」をめざして

明治以来ヨーロッパを追いつけた日本の画家ですが、日本人だからこそ描ける油絵を目指す動きが出てきました。林重義《雪山》(1938年)もその一つの例です。

(2) 1950年代~60年代「時代と切り結ぶ絵画」

戦後日本は急速な経済復興を遂げますが、その一方で様々な矛盾が噴出しました。

池田龍雄《ポイントゼロの影》(1964年)のように、社会の深層をえぐる作品が制作されています。

(3) 異国の地で生きる

ブラジルやスペインへの滞在が重要な転機であった作家 鴨居玲《おばあさん》(1973年)の収蔵を記念して、さまざまな形で海外で突破口や活動の場を見出した作家たちを紹介します。

(4) 具体美術協会

芦屋に誕生した世界的に有名な「具体」の活動を紹介します。昭和を代表する前衛美術運動の一つです。

華麗なるグラフィック対決 13点展示

日本を代表するグラフィックデザイナーの一人、粟津潔のポスターが新収蔵品に加わりました。兵庫県の生んだスター・横尾忠則のポスターとともに紹介します。

'70S, '80S,そして今 18点展示

平田洋一《コレイガイノスベテ》のように、人を考え込ませるような概念的な美術が席卷した70年代。禁欲から解放されたような80年代、そして2000年代の新しい具象表現をご覧ください。

海外の近現代彫刻 / 安藤忠雄コーナー

(1) 近・現代の西洋彫刻 11点展示

兵庫県立美術館の彫刻コレクションから、アメリカの彫刻家・シーガルの大作《ラッシュ・アワー》(1983年)をはじめ西洋彫刻11点を紹介します。

(2) 安藤忠雄コーナー

兵庫県立美術館の設計者である世界的な建築家・安藤忠雄による震災復興プロジェクトを紹介するコーナーです。

2階

(1) 明治から大正期の日本洋画 18点展示

当館のコレクションを通して、明治から大正にかけての近代洋画の流れをたどります。

(2) 兵庫ゆかりの日本画 前期11点・後期11点

水越松南《春日》1917年、岡本神草《海十題》、山下摩起《阿弥陀如来》などの新収蔵を記念して、兵庫ゆかりの日本画家による作品を紹介します。

小磯良平記念室 17点展示

神戸生まれの近代洋画の巨匠・小磯良平(1903-1988)の《T嬢の像》、《斉唱》など小磯芸術を語る上で欠かせない作品をはじめ17点を展示します。

金山平三記念室 17点展示

金山平三(1883-1964)は、神戸に生まれた風景画の名手です。名作《大石田の最上川》をはじめ、各地の風景を訪ねて制作された作品の数々は清新な魅力をたたえています。



粟津潔《中国女》1969年



正木隆《造形 00-7》2000年



岡本神草《太平洋の海》1915年(後期9月29日から展示)